

領域 8 インフォーマルミーティング議事録

開催日時：2024/3/20 (水) 18:00 – 19:00

開催地：オンライン

議長：有田 亮太郎（領域代表、東大先端研）

司会：黒澤 徹（運営委員代表、室工大）

議事録作成：西口 和孝（書記、神戸大）

出席者

領域代表（2023/4 - 2024/3）有田 亮太郎（東大先端研）

領域副代表（2023/4-2024/3）永崎 洋（産総研）

領域運営委員（2023/4 - 2024/3）

黒澤 徹（室工大/実験）、石田 茂之（産総研/実験）、西口 和孝（神戸大/理論）、金子 竜也（阪大/理論）、中村 翔太（名工大/実験）

領域運営委員（2023/10 - 2024/9）

田中 将嗣（九工大工/実験）、曾田 繁利（理研/理論）、土射津 昌久（奈良女子大/理論）、田端 千紘（原子力機構物質科学セ/実験）

次期領域運営委員（2024/4 - 2025/3）

迫田 将仁（北大/低温・実験）、足立 伸太郎（京都先端大/低温・実験）、北谷 基治（兵庫県立大/低温・理論）、金子 隆威（早稲田高等研/磁性・理論）

参加者：28 名（上記出席者を含めて）

議題 1：プログラム編集について（黒澤）

通常の大会との変更点

1. 2024 年春季大会は 4 日間の完全オンライン開催となった。
2. 領域 8 主催のシンポジウムは 4 日目の午後に設定した。
3. ポスターは（3/18～21）終日掲載され、各領域で設定された日の 16 時–18 時に 2 時間のプレゼン時間が設けられた。領域 8 には 2 つの Zoom が用意されており、ひとつのセッ

セッション内でd電子系とf電子系に分けた。領域8のポスターセッションのプレゼンは、前年度と同様に3日目の3/20に設定した。

- 2023年3月の物理学会では学生優秀発表賞を春季大会で初めて募集し、2024年3月の春季大会でも同様に開催した。

反省点・提案

- 運営代表と運営副代表、他の運営委員との連絡にはメールを用いた。添付ファイルを付けた連絡が一部の委員に届かないトラブルがあった。
- 引き継ぎ書に必要な情報が記載されており、問題を予見して対応することができた。情報を整理して引き継ぎたい。
- 2つのZoom会場でのセッション配置を行った。学生賞候補者が10名で5つの別セッションに割り当て大会2日目までに配置した。現地開催だった場合には教室サイズによる制約も加わり調整が難航したと思われる。

今大会の概要集提出率

今大会（2024春）の公演数について

【2024春 一般講演（申込みベース）】

	口頭	ポスター	合計
低温	124	34	156
磁性	48	33	81
全体	172	67	239

【（参考）2023春 一般公演（申込みベース）】

	口頭	ポスター	合計
低温	128	48	176
磁性	62	40	102
全体	190	88	278

2024年春季大会 概要集提出率

領域	講演者数	論文提出数	論文提出率
領域1	128	119	92.9%
領域2	98	93	94.8%
領域3	115	108	93.9%
領域4	101	97	96.0%
領域5	128	125	97.6%
領域6	117	112	95.7%
領域7	59	56	94.9%
領域8	255	252	98.8%
領域9	102	100	98.0%
領域10	64	61	95.3%
領域11	242	227	93.8%
領域12	122	118	96.7%
領域13	78	74	94.8%
素粒子論領域	168	93	55.3%
素粒子実験領域	213	174	81.6%
理論核物理領域	129	100	77.5%
実験核物理領域	194	167	86.0%
宇宙線・宇宙物理領域	205	142	69.2%
理事会企画	2	2	100.0%
合計	2520	2220	88.0%
物性合計	1609	1542	95.8%
素核宇合計	909	676	74.4%

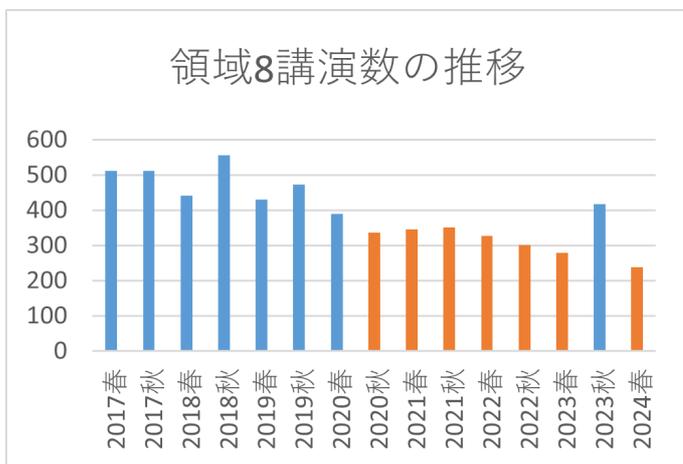
【“2024春”の表における“磁性”と“低温”の定義】

磁性：第一キーワードが4f電子系または5f電子系

低温：第一キーワードがそれら以外

領域8 講演数の推移

注) 領域8 講演数は申込ベース



- 2023 春: 239 (Web)
- 2023 秋: 417 (東北大)
- 2023 春: 278 (Web)
- 2022 秋: 301 (東工大+Web)
- 2022 春: 327 (Web)
- 2021 秋: 352 (Web)
- 2021 春: 345 (Web)
- 2020 秋: 337 (Web)
- 2020 春: 390 (コロナ中止)
- 2019 秋: 474 (岐阜大)
- 2019 春: 430 (九州大)
- 2018 秋: 556 (同志社大)
- 2018 春: 442 (東京理科大)
- 2017 秋: 512 (岩手大)
- 2017 春: 513 (阪大)

* 講演数はコロナ禍以前の水準に戻ると期待されたが、今回はコロナ禍での水準かそれ以下に回帰した。

他領域との比較 (講演概要集提出率)

2024 年春 (オンライン)

2024年春季大会 概要集提出率

領域	講演者数	論文提出数	論文提出率
領域1	128	119	92.9%
領域2	98	93	94.8%
領域3	115	108	93.9%
領域4	101	97	96.0%
領域5	128	125	97.6%
領域6	117	112	95.7%
領域7	59	56	94.9%
領域8	255	252	98.8%
領域9	102	100	98.0%
領域10	64	61	95.3%
領域11	242	227	93.8%
領域12	122	118	96.7%
領域13	78	74	94.8%
素粒子論領域	168	93	55.3%
素粒子実験領域	213	174	81.6%
理論核物理領域	129	100	77.5%
実験核物理領域	194	167	86.0%
宇宙線・宇宙物理領域	205	142	69.2%
理事会企画	2	2	100.0%
合計	2520	2220	88.0%
物性合計	1609	1542	95.8%
素核宇合計	909	676	74.4%

2023 年秋 (東北大)

第78回年次大会 (2023年) 講演概要集提出率

領域	講演者数	論文提出数	論文提出率
領域1	179	160	89.3%
領域2	95	91	95.7%
領域3	210	207	98.5%
領域4	150	142	94.6%
領域5	203	200	98.5%
領域6	117	112	95.7%
領域7	82	79	96.3%
領域8	427	416	97.4%
領域9	111	109	98.1%
領域10	120	120	100%
領域11	342	318	92.9%
領域12	130	123	94.6%
領域13	76	76	100%
素粒子論領域	196	111	56.6%
素粒子実験領域	265	208	78.4%
理論核物理領域			
実験核物理領域			
宇宙線・宇宙物理領域	255	175	68.6%
ビーム物理領域	37	33	89.1%
物理と社会			
合計	2995	2680	89.4%

* 講演数はほぼ全領域で減少している。

議題 2：領域委員会報告（有田）

2023年11月16日（木）10:00-15:15（Zoomによるオンライン開催）

1. 2024年春季大会 理事会企画・記念講演の採択
 - ・理事会企画：2件採択（企画講演）、0件不採択
 - ・若手奨励賞記念講演：17件採択、0件不採択
 - ・米沢賞受賞記念講演：1件採択、0件不採択
 - ・AAPPS-JPS Award 受賞記念講演：5件採択、0件不採択

2. 物性領域プログラム小委員会

- ・招待講演：6件採択、0件不採択
- ・企画講演：1件採択、0件不採択
- ・チュートリアル講演：5件採択、0件不採択
- ・シンポジウム（一般）：9件採択（条件付含む）、0件不採択
- ・シンポジウム（共催）：2件採択、0件不採択

3. 計算物理領域の新設について

今すぐにワーキンググループ立ち上げるのは時期尚早であり、強い反対がある状態では進めるべきではないという意見が多く見られた。今後の進め方としては、領域試行の手続きをよりクリアにして、会員から不信の念を持たれないようにすすめることが重要である。領域 1、領域 11 など大きな影響が予想される領域と個別に提案者を含めた意見交換会を設けて検討を行い、3月までに臨時の領域委員会（もしくは説明会）を開催することとなった。

- 4.

大会の現地・オンライン交互開催に関して（領域 3 からの議題提案）ポスターセッションがオンライン方式だと講演者が他学会を選択するケースが増えており、ショートプレゼンを入れる等のディスカッションを活性化できるような工夫が求められた。参加費を上げてよいのでより良いサービスを導入してほしいという意見もあった。また、オンライン開催では若手研究者が他の研究者と知り合うチャンスが減るといった懸念点も挙げられた。できるだけ対面開催を希望する意見もあった一方で、招待講演者や海外在住の方の講演のしやすさや、旅費等の面での学生の参加しやすさなど、オンライン開催のメリットも挙げられた。2021年に会員向けにアンケートをとった結果も踏まえての現在の方針でもあるため、現在の「現地・オンライン交互開催」が定着してきたところで改めて会員向けのアンケートを実施して、今後の運営の参考にしたいことも、大会担当理事から伝えられた。

2024年3月15日（金）10:00-11:30（Zoomによるオンライン開催）

1. 計算物理領域の新設について

領域 1、領域 11 など大きな影響が予想される領域と個別に提案者を含めた意見交換会を設けて検討を行った結果が報告された。これまでの経緯は物理学会ホームページにログインする

と参照できる。ワーキンググループの設置を認めて良いか、各領域で議論する。なお、ワーキンググループの設置が領域の立ち上げを意味するものではない。

2. サポートレターについて

会員向けページでの案内文案

日本物理学会では、会員がマスタープランやロードマップ等にプロジェクトを申請する際に、関連するコミュニティにおいて十分な検討が進められ、広くサポートされていると認められるものに対して、理事会による一定の審査を経てサポートレターを発出する場合があります。レターの内容は、年会・大会における議論の状況などに基きます。サポートレターを希望する会員は、提案書一式(あるいは内容がわかる同等のもの)および複数回の年会・大会における検討状況などがわかる資料(学会講演のリスト、学会でのシンポジウム開催、領域における議論の経緯など)を添えて、応募締め切りに余裕をもって会長まで申請してください。

サポートレター文案

日本物理学会は、国内外の物理学の研究者・教育者・技術者などからなる組織であり、研究成果の発表や一般市民への紹介、社会連携・教育普及事業など、さまざまな活動を行っております。

貴〇〇の〇〇に応募しているプロジェクト「〇〇〇〇」は、日本物理学会の年会等において会員の間で十分議論されたものであり、貴〇〇におかれましても検討に値するものと考えます。

日本物理学会・会長〇〇〇〇

- ◇ 以上の報告後に計算物理領域新設のワーキンググループ設置の是非が議論され、議論の結果ワーキンググループ設置は領域8全体では承認するという結論となった。
- ◇ サポートレターについては、日本物理学会の総意としてサポートレターを提示することには慎重になるべきである。サポートレターの取り扱いについては今後も継続的に審議する。

議題3：次期領域代表・副代表および運営委員の紹介（黒澤）

領域代表 (2024/4-2025/3) 永崎 洋 (産総研)

領域副代表 (2024/4-2025/3) 黒木 和彦 (阪大理)

迫田将仁 (北大 低温・実験) 運営代表 *各役割は承認待ち

足立伸太郎 (京都先端大 低温・実験) Web 担当

北谷基治 (兵庫県立大 低温・理論) 書記
佐藤芳樹 (東京理科大 磁性・実験) 学生賞 (欠席)
金子隆威 (早稲田高等研 磁性・理論) 運営副代表

任期：2024年4月～2025年3月

* 次期運営代表は低温から、運営副代表は磁性から選出

* 運営代表と運営副代表は実験と理論別に担当

◇ 次期領域代表と副代表の紹介があり各氏から挨拶があった。また、次期運営委員5名の紹介があり参加された各氏から挨拶があり、本ミーティングの場で次期運営代表や運営副代表などの各役割も承認された。

議題4：次次期領域運営委員の推薦・承認（黒澤、土射津）

藤岡正弥 (産総研 低温・実験) (欠席)
石塚淳 (新潟大 低温・理論)
東中隆二 (都立大 磁性・実験) (欠席)
角田峻太郎 (東大 磁性・理論)

任期：2024年4月～2025年3月

◇ 次次期運営委員4名の紹介があり参加された各氏から挨拶があった。次次期運営委員としてこの場で承認された。

議題5：そのほか（有田）

1. 講演数減少についての意見交換

◇ 領域8の講演数減少は深刻であり最盛期の556人(2018秋)の半数以下となってしまった。これは領域8だけの現象ではなく物性分野全体で減少傾向が見て取れる。考えられる理由として、リモート開催の弊害や学生発表数の減少、実験研究の大規模化による発表数の減少、物性の研究者(特に実験分野)人口の減少、好まれる/好まれない開催地の問題などが議論された。今後も講演数の推移は注視しなければならず、講演数の増加のための議論が必要である。

2. 次回のインフォーマルミーティングの日程について

◇ 次回のインフォーマルミーティングは大会3日目の昼休みに開催予定とした。

以上